

株主・投資家の皆様へ

第49期中間報告書 平成23年4月1日～平成23年9月30日

 和弘食品株式会社

証券コード：2813

和弘食品の味づくり物語 …………… P5

品質と安全を保障する監視システム …… P6

北海道：えりも町(昆布干し)



「本物志向」・「天然志向」・「健康志向」

を基本に、少量多品種短納期生産に磨きを掛け、
高付加価値の商品作りとお客様満足度向上に努めてまいります。



当中間期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響に歴史的な円高や欧州の金融・財政危機、米国の景気後退など外的なマイナス要素が加わり、景気は、盛り上がりには欠けた状況で推移いたしました。

食品業界では、消費者の低価格志向が定着するなか、食中毒事件や昨年の猛暑による需要の反動減、さらに、牛肉・農作物などの放射能汚染による消費者の買い控えなど、厳しい環境が続きました。

こうした状況のもと、当社におきましては、全社的に生産性や業務品質を向上すべく、組織の活性化、業務の改善に取り組んでまいりました。生産部門においては、引き続き、品質向上とコスト低減の両立を図り、営業部門におきましても、お客様満足度の向上を図るべく、提案型営業活動などに積極的に取り組み、売上と利益の確

保に努めてまいりました。

その結果、売上高は、2,897百万円、営業利益は136百万円、経常利益は142百万円、中間純利益は87百万円となりました。(財務諸表は、P7をご覧ください。)

今後は、第49期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)を初年度とする3ヵ年の中期計画「NEXT50」の主要戦略として、少量多品種短納期生産に磨きを掛け、お客様満足度の向上を図ると同時に、品質・コストの両面で競争力を強化するため生産部門で人材育成、製造原価低減と品質向上を図るカイゼンプロジェクト活動やカイゼン提案制度などに一層注力してまいります。また、「天然エキス」「ブイヨン」「だし」などの高付加価値化を進めるため研究開発をさらに積極的に推進してまいります。業務用製品の拡販に向けては、営業部門で具体的な販売戦略、販売体制の整備を進めてまいります。インターネット通販については、社内体制を整備し、取り扱いアイテムの拡充などに取り組んでまいります。海外事業については、引き続き現地調査を行い、当面、輸出の拡大を図る方向で進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

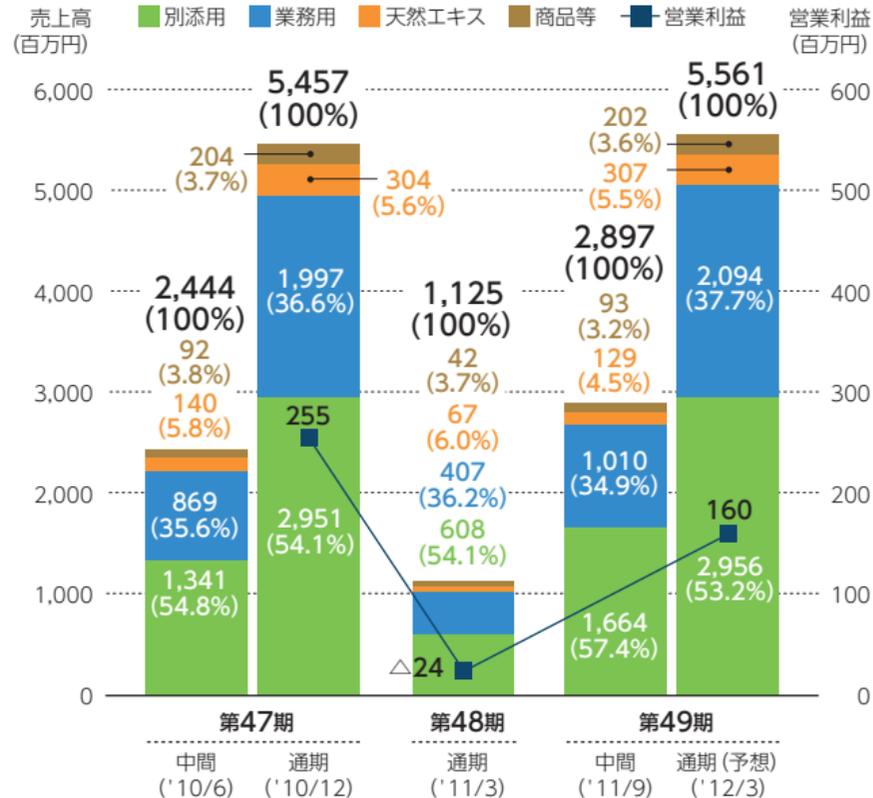
代表取締役社長

和山 明弘

事業内容のご紹介

和弘食品は業務用調味料メーカーとして創業以来、豊かな大自然に恵まれた北海道にその根をおろしてまいりました。当社の味づくりの基本は北海道の新鮮な海の幸、山の幸から当社独自の製造技術と設備により芳醇な自然のうま味である「だし」「ブイヨン」を採り出すところにあります。そして、当社はそれらをふんだんに活用した本物志向の「つゆ」「たれ」「スープ」や「天然エキス」などの商品を食品メーカー、外食企業、コンビニエンスストアなどの流通企業に向けてメニューとともに提供してまいりました。当社は少子高齢化の進行など社会の変化に対応すべく今後とも高付加価値の本物志向・天然志向・健康志向の商品作りを目指すとともに「食の安全と安心」を徹底して追求してまいります。

区 分	主 要 品 目
別 添 用	各種調味料・スープ・たれ類
業 務 用	各種調味料・スープ・たれ類
天 然 エ キ ス	エキス、ブイヨン等 (昆布・ホタテ・カニ・ポーク・チキン等)
商 品 等	メンマ、チャーシュー、かき揚げ等



※決算期変更に伴い、第48期事業年度は平成23年1月1日から平成23年3月31日までの3ヶ月間の変則決算となります。



別添スープ

業務用調味料メーカーの特長を生かし、独自の天然のうま味である「だし」「ブイヨン」を使用することで、より本格的な商品を提供しています。専門店の味をご家庭にお届けしております。

業務用スープ

専門店での仕込み作業を軽減し本格的な味づくりをバリエーション豊かに応援。主力のラーメンスープ他、ガラスープ、めんつゆ、外食関係、水産、畜肉等のメニュー作りをお手伝いする数多くの商品ラインナップがあります。数多くの繁盛店の応援をしています。



天然エキス (ホタテエキス)

当社主力製品の1つの海産物エキスです。北海道の大自然で育まれた新鮮素材を十分に吟味し、独自の製造技術により純粋な天然エキスを創りあげました。これらエキスは自社オリジナルの加工原料として、数多くの製品に取り入れられています。

通販

ご家庭で本格有名店の味をストレートスープでお楽しみいただける、つけ麺の通販サイト「スープランド共和国」を楽天市場にオープンしました。ラーメンスープ製造の特長を生かした、店主監修のスープをご家庭でお楽しみいただけます。



和弘食品の

味づくり物語

【 #1 】 オーダーメイドな味づくり

多様化するライフ・スタイル、ライフ・サイクルに伴い、シーンごとに求められる味も変化しています。お客様のニーズに応えるためにはオリジナルの味づくりが欠かせません。和弘食品では北海道の新鮮な食材をもとに、スープ、たれ、つゆ、天然エキスをはじめとする業務用調味料の開発から製造、販売までを一手に承っています。

Step 1

お客様がイメージされているお店の味や具体的な味の方向性など、お客様のニーズを経験豊かな営業スタッフが詳しくヒアリング・分析するところから、和弘食品の「味づくり」が始まります。

Step 2

膨大なストックレシピと多岐にわたる試作経験をもとに、商品開発スタッフがお客様の求める味を具現化していきます。



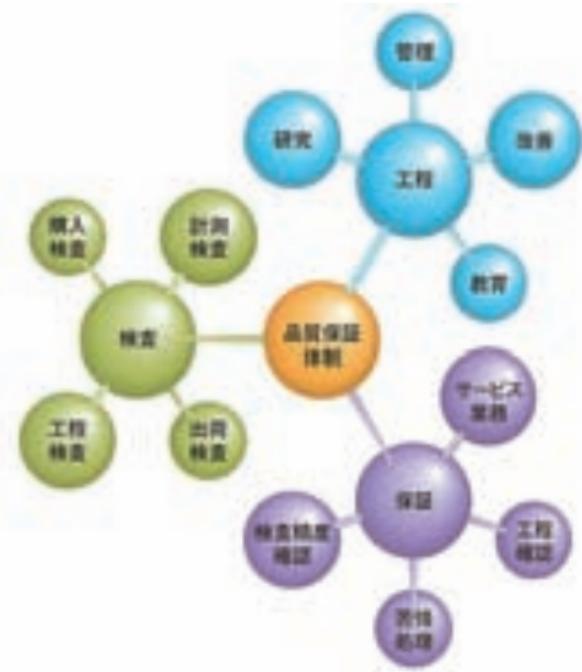
Step 3

液体・ペーストは400kg、粉末は150kgからの多品種少量生産に対応。生産本部における数多くの生産実績が、お客様のプライベートブランド製造(OEM)を可能にしています。



品質と安全を保証する監視システム

最新鋭のシステムを備えた生産工場では、HACCPを基準に、原料の購入検査に始まり、工程検査、品質検査から出荷検査にいたるまで、あらゆる工程で厳重な検査・管理が行われております。厳しい人の目とコンピューターによるダブルチェックシステムで、安心・安全・信頼の商品をお届けしています。





財務諸表

中間貸借対照表

(単位：千円)

科目	第49期 中間期 (平成23年9月30日現在)
資産の部	
流動資産	2,927,672
固定資産	2,238,372
資産合計	5,166,044
負債の部	
流動負債	1,032,274
固定負債	193,657
負債合計	1,225,932
純資産の部	
株主資本	3,930,624
評価・換算差額等	9,488
純資産合計	3,940,112
負債及び純資産合計	5,166,044

中間損益計算書

(単位：千円)

科目	第49期 中間期 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)
売上高	2,897,615
売上原価	2,179,333
売上総利益	718,281
販売費及び一般管理費	581,458
営業利益	136,823
営業外収益	6,864
営業外費用	1,425
経常利益	142,262
特別利益	14,733
特別損失	1,634
税引前中間純利益	155,360
法人税、住民税及び事業税	59,878
法人税等調整額	7,591
中間純利益	87,890

中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	第49期 中間期 (平成23年4月1日～平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	250,244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△708,321
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,750
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△467,827
現金及び現金同等物の期首残高	1,376,998
現金及び現金同等物の中間期末残高	909,170

IRサイトのご案内



決算ハイライトの詳細な情報につきましては、当社ホームページの「IR情報」から「財務ハイライト」でご覧いただけます。

詳細な財務情報はこちら

和弘食品

検索



会社概要

(平成23年9月30日現在)

会社名	和弘食品株式会社
(英文名称)	Wakou Shokuhin Co., Ltd.
設立	昭和39年3月30日
資本金	1,413,796千円
本社所在地	北海道小樽市銭函3丁目504番地1
従業員数	145名(左の従業員の他に臨時社員等を雇用しており、年間の平均雇用人数は91名であります。)

取締役及び監査役

【取締役】

代表取締役社長	和山明弘
取締役副社長	市川敏裕 (営業本部長兼営業企画部長兼生産本部管掌)
専務取締役	中島康二 (管理本部長兼経理部長兼経営企画室長兼提携業務推進室長)
常務取締役	後藤政弘 (商品部長兼品質保証室長兼CVS部担当)
取締役	城畑孝康 (生産本部長兼北海道工場長)

【監査役】

常勤監査役	清水裕雄
監査役	森本 清 (森本清税理士事務所代表)
監査役	森川潤一 (森川公認会計士事務所代表)

※ 監査役のうち森本清、森川潤一の両氏は、社外監査役であります。また、監査役森本清氏及び監査役森川潤一氏を株式会社大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

本社、支店ならびに工場所在地





株式情報

(平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数	16,600,000株
発行済株式の総数	9,493,193株
株主数	2,432名
総株主の議決権の数	8,179個

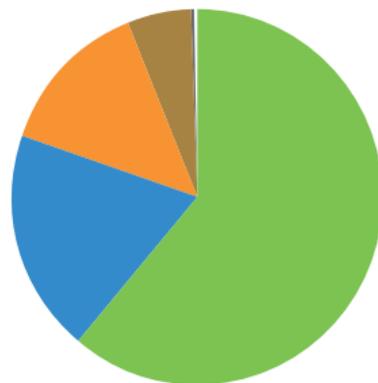
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和山 明弘	1,658	20.25
日清オイリオグループ株式会社	1,600	19.54
和山 けい子	610	7.45
株式会社北陸銀行	190	2.32
株式会社北海道銀行	142	1.73
日本生命保険相互会社	100	1.22
中川 なを子	80	0.99
和弘食品社員持株会	65	0.80
三菱UFJ信託銀行株式会社	50	0.61
船橋 富吉	45	0.56

※ 1.当社は、中間期末日現在自己株式を1,304,222株所有しております。
 2.持株比率は自己株式(1,304,222株)を控除して計算しております。

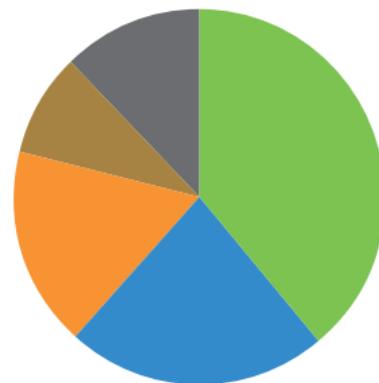
株主構成

[所有者別(株式数)(株)]



●個人・その他 5,802,362 (61.12%)
 ●その他法人 1,826,500 (19.24%)
 ●自己株式 1,304,222 (13.74%)
 ●金融機関 523,000 (5.51%)
 ●金融商品取引業者 36,109 (0.38%)
 ○外国法人等 1,000 (0.01%)

[地域別(株主数)(名)]



●関東地方 952 (39.14%)
 ●近畿地方 549 (22.57%)
 ●中部地方 422 (17.35%)
 ●北海道地方 217 (8.92%)
 ●その他 292 (12.02%)

株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	大阪証券取引所
公告方法	電子公告により当社ホームページ (http://www.wakoushokuhin.co.jp/) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
証券コード	2813 (大阪証券取引所)

和弘食品株式会社

北海道小樽市銭函3丁目504番地1 <http://www.wakoushokuhin.co.jp/>

【お知らせ】

ご注意

- ①株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ②特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
- ③未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



環境保全のため、植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。